

中学歴史プリント（過去問類似）

人類の出現と文明

名前

得点

/8

問1 古代アテネで直接民主政が成立・維持された背景や特徴について、現代の民主主義と比較した説明として最も適切なものを選びなさい。（2024年 山梨公立入試 類似）

1. 国家の規模が小さく、市民が特定の場所に集まって直接議論することが可能だった
2. 通信技術が発達していたため、遠隔地からでも市民が投票に参加できた
3. 選挙によって選ばれた専門の議員が、市民の代わりに法律を制定していた
4. 全ての住民が平等な権利を持っていたため、争いなく物事が決定されていた

問2 十字軍の遠征が失敗に終わり、教皇や教会の権威が揺らぎ始めた後のヨーロッパでは、教会のあり方を批判する動きが起きました。ドイツにおいて「教会の免罪符（贖宥状）を購入することで罪の許しが得られる」と主張する説教者は間違いである」という意見書を発表し、宗教改革を始めた人物は誰ですか。（2023年 山梨公立入試 類似）

1. マルティン・ルター
2. ジャン・カルバン
3. フランシスコ・ザビエル
4. イグナティウス・ロヨラ

問3 紀元前2500年ごろ、現在のパキスタン付近を流れるインダス川流域で栄えた文明において使用され、石製の印章（印鑑）などに刻まれているものの、現在も解読されていない文字を何といいますか。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. インダス文字
2. 楔形文字
3. 甲骨文字
4. 神聖文字（ヒエログリフ）

問4 かつて日本列島には土器が出現する前の時代は存在しないと考えられていましたが、1949年に相沢忠洋氏が群馬県にある特定の遺跡で、火山灰が堆積した関東ローム層の中から石を打ち欠いて作られた道具を発見したことで、その定説が覆されました。このとき発見された道具の名称と、遺跡名の組み合わせとして正しいものを選択してください。（2023年 三重公立入試 類似）

1. 打製石器・岩宿遺跡
2. 磨製石器・岩宿遺跡
3. 打製石器・三内丸山遺跡
4. 磨製石器・三内丸山遺跡

問5 中国の古代文明における道具の使用や、文字が果たした役割についての説明として、歴史的な背景を踏まえた正しい記述はどれですか。（2019年 山形公立入試 類似）

1. 王が政治や軍事の重要な決定を行うための占いの記録に文字が使われ、祭祀の道具として青銅器が発達した。
2. 農作業を効率化するために鉄製の農具が広く普及し、土地の所有権を明確にするために文字が発明された。
3. ナイル川の氾濫を予測するために天文学が発達し、その計算結果を記録するために文字が独占的に使われた。
4. 巨大な王の墓を建設する際の労働力を管理するため、石碑にその功績とともに文字が刻まれた。

問6 古代文明の特徴を説明した次の記述のうち、メソポタミア文明に該当するものとして適切なものはどれですか。（2016年 大分県公立入試 類似）

1. チグリス川・ユーフラテス川の流域で栄え、月の満ち欠けを基準とする太陰暦が用いられた。
2. ナイル川の定期的な増水を予測するため、太陽の動きを基準とする太陽暦が作られた。
3. インダス川流域の都市において、下水道や公衆浴場などの高度な都市設備が整えられた。
4. 黄河や長江の流域で、亀の甲や牛の骨に文字を刻んで占いが行われた。

問7 中国文明の初期の王朝である殷（いん）では、政治や軍事に関する重要な事柄を決定する際、ある特別な方法が用いられていました。その方法と、それに関連して生まれた文化的な特徴について説明したものとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 石碑に刻まれたハンムラビ法典に基づき、厳格な裁判によって国家の秩序を維持した。
2. 亀の甲羅や牛の骨を焼いて現れたひびの形で神の意志を占う「骨占い」を行い、その結果を甲骨文字で記録した。
3. パピルスと呼ばれる草の茎から作られた紙に、象形文字を用いて王の業績を詳しく記録した。
4. インダス文字を用いた印章を使い、農産物や家畜の取引内容を正確に管理することで経済を安定させた。

問8 7世紀にアラビア半島のムハンマドが、唯一の神であるアッラーからの啓示を受けたとして開いた、神への絶対的な服従を説く宗教は何か、次の中から選びなさい。（2025年 千葉公立入試 類似）

1. イスラム教
2. キリスト教
3. 仏教
4. 儒教

答え合わせ・解説

問1	答え 1 国家の規模が小さく、市民が特定の場所に集まって直接議論することが可能だった	古代ギリシャのポリス（都市国家）は、現代の国家に比べて人口や面積の規模が非常に小さかったため、市民が一堂に会して直接議論する「直接民主政」が可能でした。現代の国家では規模が大きすぎるため、代表者を選ぶ「間接民主政（議会制民主主義）」が一般的ですが、アテネでは市民が自ら国政に携わる形態がとられていました。
問2	答え 1 マルティン・ルター	十字軍の失敗などによってカトリック教会の権威が低下する中、16世紀にドイツのルターが「九十五ヶ条の論題」を発表し、教会の腐敗を批判しました。これがきっかけとなり、聖書を信仰のよりどころとするプロテスタントが誕生する宗教改革へと発展しました。
問3	答え 1 インダス文字	インダス文明で用いられた文字は、象形文字に近い形態を持っており、これまでに約400種類の記号が確認されています。主に印章と呼ばれる石のハンコに動物の絵とともに刻まれており、交易の際の所有権を示すために使われたと考えられていますが、ロゼッタ・ストーンのような翻訳の鍵となる資料が見つかっていないため、今もなお未解読のままです。
問4	答え 1 打製石器・岩宿遺跡	群馬県の岩宿遺跡で打製石器が発見されたことにより、日本列島に旧石器時代（土器出現前の時代）が存在したことが初めて証明されました。打製石器は石を打ち欠いて鋭い刃を作った道具で、これに対して石を磨いて形を整えたものは磨製石器と呼ばれ、後の新石器時代（日本では縄文時代以降）に普及しました。三内丸山遺跡は青森県にある縄文時代の大規模な集落跡です。
問5	答え 1 王が政治や軍事の重要な決定を行うための占いの記録に文字が使われ、祭祀の道具として青銅器が発達した。	殷の時代、政治は占いによって神の意志を問うことで行われており、その内容を刻んだのが甲骨文字です。また、この時期に発達した青銅器は、主に神を祀る儀式（祭祀）や、王の権威を示すための器として作られました。鉄製の農具が普及するのは後の時代のことです。他の選択肢はエジプト文明などの特徴を含んでいます。
問6	答え 1 チグリス川・ユーフラテス川の流域で栄え、月の満ち欠けを基準とする太陰暦が用いられた。	メソポタミア文明は現在のイラク付近を流れる二つの大河のほとりで発展しました。天文学が発達し、月の満ち欠けの周期に基づく暦（太陰暦）が使われたほか、一週間を七日とする制度や、六十進法などの起源にもなっています。他の選択肢は、それぞれエジプト文明、インダス文明、中国文明の特徴です。
問7	答え 2 亀の甲羅や牛の骨を焼いて現れたひびの形で神の意志を占う「骨占い」を行い、その結果を甲骨文字で記録した。	古代の中国文明では、王が政治や祭祀を司る際、神の意志を確認するための占いが非常に重視されていました。この占いの結果を記録するために使われたのが甲骨文字です。このように、宗教的な儀式と政治が一体となった統治が行われていたことが、中国文明の大きな特徴の一つです。
問8	答え 1 イスラム教	ムハンマドがメッカで開いたこの宗教は、唯一神アッラーを信仰し、その教えは聖典「コーラン」にまとめられています。ムスリムと呼ばれる信者は、礼拝や断食など、生活全般において神への服従を実践することを重んじます。